

〔優秀賞〕

◇ 誰もが平等に過ごせる社会へ

◇

犬伏東小学校 6年 大矢 花

「あなたは、女の子だからピンクでいいよね。」

私は以前このようなことを何気なく言われ、違和感を覚えたことがありました。決して意地悪や差別で言われたのではないことは分かっています。この違和感とは、自分の想いとは別に、勝手に、女性という理由で決められたからだと思います。

話は変わりますが、皆さんは「バイアス」という言葉をご存じでしょうか。バイアスとは、特定の方向に偏った考え方のことです。そして、人の考え方には無意識に何らかのバイアスがあるそうです。例えば、人は自分に有利な情報は積極的に集めますが、不利な情報は無視するという傾向があります。要するにクセのようなものです。皆さんもこういう経験はないでしょうか。

今回男女共同参画の作文を書くにあたり、内容を調べれば調べるほど、人が抱えるこのバイアスというものが関係していることに気づきました。社会的・文化的に形成された、性別の役割（男らしさ・女らしさ）に基づく偏見や固定観念のことを指すバイアスもあります。例えば、男性が仕事をして、女性が家事をするという考え方は、その一つです。

ここで問題は、それらの考え方は、長い時間をかけて作られたものであり、また、誰もが悪意をもっているわけではなく無意識にしているため、正すのが難しい点です。

こうした点もふまえて、私は男女共同参画実現のために、できることを考えてみました。

私は、「夏休み理系女子セミナー化石と博物館の仕事」というセミナーに参加しました。最初、化石や博物館にはあまり興味を感じていませんでしたが、男性の研究者が多い考古学の中で、化石の研究をしている女性の学芸員の方から話を聞いたり、自分で石磨きを試みると意外に面白いと感じました。そしてその学芸員の方は話の最後に「私は小さいころから博物館に興味があり、それから大学は理系に進み、勉強していくうちに、化石の研究者になりたいと思うようになりました。」と話していました。

私は、この話を聞いて、男性だから、女性だからと性別に関係なく、自分がやりたいと思うことや、自分のなりたい夢を自由に決められて、いろいろな人の個性や能力が活かせるような社会を目指していくべきだと感じました。

また、私自身が、周りの人に対して、誰が何を選択しても、否定したり、偏見や好奇の目で見たりすることなく、素直に応援したり、助け合ったりすることができるようになりたいと思います。それが、誰もが平等に過ごせる社会をつくる小さな一歩になるのではないのでしょうか。